

認知症の症状

認知症の症状は大きく「中核症状」と「行動・心理症状(BPSD)」の2つに分けることができます。



中核症状

病気などにより脳の細胞が壊れ、その細胞が担っていた機能が失われたために生じる症状。

★記憶障害

- ・さっき聞いたことが思い出せない
- ・覚えていたはずの記憶が失われる

★実行機能障害

- ・前もって計画を立てることができない
- ・家電や自販機などが使いこなせない

★見当識障害

- ・時間・季節・場所等が分からなくなる
- ・道順などが分からなくなる

★理解・判断力の障害

- ・考えるスピードが遅くなる
- ・いつもと違うことで 混乱しやすくなる

東京都福祉保健局ウェブサイト「とうきょう認知症ナビ」より引用

主な行動・心理症状(BPSD)

「中核症状」により生活上の困難にうまく適応できない場合に、本人の性格、環境、身体状況が加わって起こる症状。

★幻覚(幻視・幻聴)

実在しない音や声が聞こえる幻聴や、実在しないものが見える幻視など

★妄想

ものを盗られたと訴えるなど、現実にはあり得ないことを真実と信じ込む

★徘徊

記憶障害などの要因により歩き回る

★不安・焦燥

不安になり、日常のささいなことを心配する

★うつ状態

- ・気分が沈む
- ・何に対しても興味を示さない

★せん妄

- ・一時的な意識障害による混乱状態
- ・幻覚、暴言・暴力がみられることがある

★暴言・暴力

- ・大きな声をあげる
- ・暴力をふるう

★不潔行為

主に排泄に関連した行動がうまくできずに起こる、便いじり等がある

★不穏・興奮

- ・落ち着かない
- ・イライラしやすい

★介護抵抗

介護者に反抗的な態度を示し拒否する